

システム情報工学研究科修士論文概要

年 度	平成 25 年度	学位名		修士(ビジネス)
専 攻	経営・政策科学	専攻	著者氏名	瀧上 圭太
指導教員氏名 住田 潮				
論文題目				
半導体研究開発コンソーシアムの日米欧比較に基づく日本エレクトロニクス産業への提言				
論文概要				
<p>半導体産業のような高額な投資を行う産業では、1 企業での投資の限界に伴い、産業内での企業間・組織間共同研究が進み、特に日米欧において研究開発コンソーシアム(以下、コンソーシアム)の設立が増加している。欧米のコンソーシアムでは世界からお金・人材・技術・活力を集めて発展し続ける一方、日本のコンソーシアムは、参画企業への貢献や独立研究機関としての持続的発展性欠けている。そこで、本研究では、日米欧のコンソーシアムの相違の観点から分析し、日本の研究開発コンソーシアムが参画企業への貢献や独立研究機関として持続的に発展できなかった原因、また、欧米の発展の要因を明らかにする。そして、日本のコンソーシアムや研究開発ビジネスの発展に資する提言を試み、日本エレクトロニクス産業の未来の一助となることを目指す。</p> <p>先行研究レビュー、アンケート調査、ヒアリング調査により日本と欧米のコンソーシアムの相違点を明らかにした。生産管理の 5W2H とピニユールの BMI 分析フレームを用いた先行文献レビューでは、コンソーシアムにおける組織のリーダーシップの有無と技術戦略の研究テーマの設定方法に日本と欧米の相違点があることがわかった。また、アンケート調査において、コンソーシアムに参加している企業課題認識の時期、成長戦略における戦略と目的の志向、コンソーシアムの年度予算に関する予算規模の大小、企業と人材の関与の関係では企業と人材の関与の整合性、人材の競争意識が日本と欧米の相違点として挙げられた。加えて米国 CNSE とベルギー IMEC を事例とした事例研究では、投資の継続性、研究開発を行う際に欠かせないクリーンルームの経営人材の有無、コンソーシアムの基盤顧客となる企業の参加の継続性、参官のコンソーシアムへの参加動機、パートナー選定をする際の動悸と利害関係の一致、コンソーシアムの評価方法やその評価に対する監査・批評の有無に日本と欧米の相違点がみられた。</p> <p>次に相違点の項目間の因果関係を原因結果影響の全体像として明らかにし、「動機とパートナー選定」、「リーダーシップと組織基盤」、「評価制度と人材の意識」、「評価方法と技術戦略」の 4 点について考察し、日本半導体産業に対しての提言をおこなった。</p>				
審査日	平成 26 年 1 月 31 日			
審査員	(大学名 職名)	(学位)	(氏名)	
主査	筑波大学 准教授	Ph.D. in Economics	渡邊 直樹	
副査	筑波大学 教授	Ph.D. in Manegement,理学博士	住田 潮	
副査	筑波大学 講師	博士(コンピューター理工学)	有馬 澄佳	